

横查情報月報



2021
5051

5 月
目
2

横浜市衛生研究所

令和3年5月号 目次

【検査結果】

医動物・食品中異物検査結果（令和2年度）	1
食品の苦情品等検査（令和2年度）	
—食品添加物担当で行った理化学検査—	2
食品中の放射性物質検査結果（令和2年度）	8

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年4月）	10
-----------------------------	----

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年4月）	12
----------------------------	----

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

医動物・食品中異物検査結果(令和2年度)

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。令和2年度の食品中異物検査実績は4件でした。内訳は昆虫類2件(コウチュウ目)、その他の節足動物類1件(ダニ目)、その他の動物1件(マキガイ綱マイマイ目)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
購入した鶏肉を調理し、食べようとしたところ、幼虫を発見した。 (4月)	 幼虫、乳白色、3mm	タバコシバンムシ (コウチュウ目)	幼虫の食性は広く、被害食品の種類は100種をこえる。 パン、ビスケット、コーヒー、ココア、香辛料、豆類、乾果など多くの乾燥食品を加害する代表的な食品害虫である。
購入した羊の臓物(食肉加工品)をスープにし、食べたところ虫が出てきた。(1月)	 幼虫、乳白色、2.5mm	タバコシバンムシ (コウチュウ目)	
保存してあったお好み焼き粉でたこ焼きを作り食べたところ、体調不良になった。 (1月)	 白色半透明、約0.3mm	コナヒョウヒダニ (ダニ目)	室内塵中に普通に見られる。特に畳、絨毯を敷いた屋内に多く発生する。また、配合飼料、食品、医薬品などから発見されている。食性は、塵の中のダニの死骸、破片、人のフケなどである。
そうざいの内蓋に生きたナメクジが付着していた。 (6月)	 黒色、幼体、20mm	チャコウラナメクジ (マイマイ目)	住宅の庭や畑などにみられ、植物の葉、花や若芽、キノコや地衣類も好んで食べる。台所の残菜、骨、肉の残りもナメクジをひきつける。

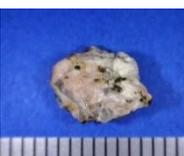
食品の苦情品等検査(令和2年度)

－食品添加物担当で行った理化学検査－

令和2年度、福祉保健センター等に届けられた食品に関する苦情品等で、原因究明のために検査依頼があったのは、18件26検体でした。相談の内容は様々ですが、異物混入が多数を占めました。主な検査結果は次のとおりです。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
餃子中の異物 	購入した野菜餃子(未加熱品)を自宅で焼いて喫食したところ、口の中から異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 結果 備考	大きさ約7×6×2mm、重さ79mg、黄褐色の硬い不定形異物。 全体的に細かい凹凸のある表面であり、所々白色の箇所も見られた。白色部分は水やエタノールで洗浄しても変化は認められなかった。 軟骨小腔と思われる多数の微細な窪みを認めた。一部ざらついた箇所も観察された。 炭素、酸素、窒素、リン、硫黄、カルシウム等の元素を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 タンパク質を主成分とする物質と推定された。 形態や元素分析から軟骨の可能性が考えられた。
針金状の異物 	ごま酢和えに針金様異物が混入しているのを発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 磁性 結果 備考	長さ7.5mm、太さ2.0mm、重さ57mgの光沢がある銀色の太い線状異物。 全体的に金属光沢のある銀色で、異物の端は刃物によると思われる断面になっていた。表面は鋭利なもので削られたような痕跡が認められた。 切断面は直線状の模様のように見えるが、拡大すると層状の凹凸が認められた。 主としてアルミニウム、次いで酸素が検出された。 磁性は認められなかった。 アルミニウムを主成分とする金属片と推定された。 対照品(工作の授業で使用した針金)と形態、組成が類似しており、同一の物の可能性が考えられた。
かつ井中の異物 	購入したかつ井を喫食中に異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 卵(ELISA法) 結果	大きさ約16×10mm～5×4mm、重さの合計0.14g、黄～茶色の着色部分を含む半透明の薄い異物5個。 異物は、表面が比較的平滑な透明部分と、凹凸がある黄色部分が混在していた。また、拡大すると多数の気泡が観察された。 炭素、酸素、窒素、硫黄の元素を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 卵白アルブミン陽性 卵のタンパク質が固まったものと推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ご飯中の異物 	麦ご飯中に金属様異物が混入しているのを発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 磁性結果	大きさ6.0mm×2.5mm、重さ4.7mgの光沢がある銀色の不定形異物。 全体的に金属光沢のある銀色で、異物の端はちぎれたような断面になっていた。表面は鋭利なもので削られたような跡や剥離したような跡が認められた。 表面は平滑で模様のない部分と線状の模様のある部分、一部隆起しているような部分が認められた。 主としてアルミニウム、次いで酸素等が検出された。 磁性は認められなかった。 アルミニウムを主成分とする金属片と推定された。
干しブドウ中の異物 	干しブドウを喫食中に、1粒の味がおかしかったため吐き出した。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 フェーリング反応 植物(PCR法) 結果	大きさ約10×16mm、不定形の黒色異物。搬入時は乾燥していて比較的硬かったが、水に入れるとふやけて柔らかくなった。 全体的に細かな凹凸がある表面をしており、淡黄色～茶褐色の箇所も見られた。 炭素及び酸素の元素を認めた。 糖類と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 陽性 糖類を主成分とする植物と推定された。
プラスチック片様の異物 	ひじきご飯を喫食していたところ、異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 燃焼性 ニンヒドリン反応 結果 備考	大きさ約2×1mm～6×5mm、重さ約0.5～2mgの白色半透明異物6個。 全体的に白色半透明であるが、無色透明の箇所と黄色の付着物と思われるものが観察された。縁は丸みを帯びているが、欠けたと考えられる異物の縁は鋭利であった。 表面は比較的滑らかであり、特徴的な模様などは認められなかった。断面を拡大したところ、層構造が観察された。 炭素、酸素、窒素、カルシウム、リン等の元素を認めた。 灰化前、灰化後共に骨と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 タンパク質が焦げたような臭いを発した。 陽性 骨の欠片と推定された。 当日の献立にきびなごフライがあり、形態、組成からきびなごの骨の可能性が考えられた。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
カレー中の異物 	レトルトカレー内からネズミの糞様異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果備考	複数ある茶色の固形物から4つ及びカレーのルーと思われたものを一部採取したものを検査対象とした。採取した異物の大きさは約3～6×2～3mm、重さは約5～20mgであった。 表面は凹凸が認められ、異物によっては菌糸様の繊維や白い塊の付着が認められた。切断した断面からは繊維状物は認められなかった。 表面は細かい凹凸が認められた。マイクロスコープで認められた繊維状物及び白い塊は菌糸及び胞子と類似していた。 茶色の固形物の断面からは炭素、酸素及び窒素が主元素として検出された。一方、カレーのルーと思われたものから窒素は検出されなかった。 茶色の固形物はタンパク質、カレーのルーと思われるものは小麦粉と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 タンパク質を主成分とする固形物と推定された。 ネズミの糞では、一般に糞中にネズミの体毛が認められる。今回の異物の表面に認められた繊維状物は菌糸であると考えられ、断面に繊維状物は確認できなかったことから、ネズミの糞である可能性は低いと考えられた。
牛肉中の異物 	牛ひき肉を検品中に毛様異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 牛(PCR法) 結果	長さ2～8mm、太さ0.03～0.05mm程度の黒色の繊維状異物が複数紙に付着した状態で搬入された。その中の大きな塊は、大きさ11×3mm、重さ4.9mgであった。 異物を拡大すると、毛のように細長く滑らかなものが密集しており、先端は切断されていた。 異物の表面に横行波状の小皮紋理(キューティクル)を認めた。 陽性 牛の毛と推定された。
羊の臓物中の異物 	羊の臓物(食肉加工品)を喫食中に石のような異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約9×6×4mm、重さ0.19g、白～灰色の硬い石様異物。 全体的に凹凸のある塊で、主に白色、灰色、薄桃色の箇所が混在し、褐色の箇所も観察された。 主成分として酸素、ケイ素、アルミニウムを含有し、少量の鉄、ナトリウム、カルシウム、カリウム等の元素も認めた。 シリカに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 鉱物と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
タラのクリーム煮中の異物 	タラのクリーム煮を喫食中に、口の中からプラスチック様異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 燃焼性 溶解性 結果 備考	大きさ約16×7mm、重さ30mg、白色半透明の硬い薄片状異物。 全体的に滑らかな表面であり、中央部はわずかに盛り上がった線状の構造をしていた。 微細な窪みが多数観察された。 炭素、酸素、窒素、カルシウム、リン等の元素を認めた。 灰化前、灰化後共に骨と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 加熱するとタンパク質を燃やしたような臭いを発し、炭化した。 塩酸を滴下すると発泡し、溶解した。 骨の欠片と推定された。 原材料にタラが使用されていたことから、タラの骨の可能性が考えられた。
たこ焼き	自宅で調理したたこ焼きを喫食したところ、かゆみ、蕁麻疹等のアレルギー症状や腹痛、嘔吐があり、当所にヒスタミンの検査が依頼された。	ヒスタミン	たこ焼き、かつお節の2検体共に不検出(検出限界:5mg/100g)であった。
生揚げのそばろ煮中の金属片異物 	生揚げのそばろ煮を喫食中に口の中から金属片を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 磁性 結果 備考	大きさ9.6×0.4mm、重さ10.2mg、銀色の金属光沢のある異物。 金属光沢があり、長辺に沿って直線状の模様が確認された。また、全体を覆っていたと思われる薄膜がボロボロに剥離しているように見受けられ、褐色に着色していた。 表面は平滑な金属にところどころ薄膜が張り付いており、凹凸があった。断面は粗く切断された様子を認めた。 主に亜鉛、鉄、酸素等が検出された。部位により比率が異なり、金属表面は亜鉛が多く、断面や内部は鉄が多く見られた。 磁性を認めた。 亜鉛や鉄を主とする金属片と推定された。 元素組成や形状が対照品のステープラの針と類似していることから、異物はステープラの針の一部の可能性が考えられた。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
寿司中の異物 	購入した寿司を喫食したところ、貝の寿司を口に入れた際に硬い異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 溶解性 結果	大きさ約7mm×4mm、重さ0.03g、白色の硬い異物。光沢のある面と淡い赤褐色を帯びた反対面が見られた。 光沢のある面は滑らかで白色、辺縁は一部茶褐色に着色し、白色半透明の薄板が重なりあっていた。反対面は筋状の凹凸があり、濃淡のある赤褐色を帯びていた。 光沢のある面は比較的凹凸が少なく平滑で、反対面は全体に細かな凹凸が見られた。 酸素、炭素、カルシウム、窒素の元素を認めた。 炭酸カルシウムと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 塩酸を滴下すると激しく発泡し、溶解した。 炭酸カルシウムを主成分とし、窒素を含む硬い固形物と推定された。
ヨーグルト中の異物 	自宅で陶器製の器にヨーグルト、バナナ等を盛り付けて喫食したところ、プラスチックか魚の骨のような異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ16×4mm、厚さ0.2～0.4mm、重さ74mg、無色透明の硬質異物。水に入れると沈んだ。 全体的に平滑で中央部分が盛り上がった形状をしていた。一部に細かい線が密集している箇所や、直線的な断面及び砕けたような断面が観察された。 酸素、ケイ素、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム等の元素を認めた。 ガラスと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 ガラスの欠片と推定された。
カレー中の異物 	ビーフカレーを喫食中に、口内で異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ6×2mm、重さ約7mg、薄く黄色味がかかった白色の異物。 表面は凹凸が観察され、白色繊維状の付着物が認められた。 固形部の表面には細かな凹凸と付着物が多数認められた。 固形部では炭素、酸素、窒素、カルシウム、リン等の元素を認めた。また、繊維状物では炭素と酸素の元素を認めた。 固形部では骨と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。また、繊維状物ではセルロースと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 固形部は骨の欠片、繊維状物はセルロースを主成分とする有機物であると推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ホワイトシチュー中の異物 	ホワイトシチューを喫食中に、口内で硬い異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 溶解性 結果	大きさ約10mm×8mm、重さ0.11g、白色でやや丸みのある硬い異物。異物を水に浸すと乳白色となり沈んだ。 白色で不定形の凹凸が多数見られた。 不定形の窪みの周辺に微細な孔が見られた。 酸素、炭素、カルシウム、窒素、リンの元素を認めた。 骨と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 塩酸を滴下すると発泡し、溶解した。 骨の欠片と推定された。
ミネストローネ中の異物 	ミネストローネを喫食中に、口内で硬い異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 リグニン反応 結果 備考	大きさ17×11mm、厚さ9mm、重さ0.77g、淡黄～黄褐色の硬い異物。 片方の面は凹凸があり、所々に1mm程度の窪みが観察された。もう片方の面は滑らかで、色が濃くなっていた。断面は鋭く切断されたような箇所があり、その部分は木目模様であった。 植物に特徴的なハチの巣構造と維管束を認めた。 炭素及び酸素の元素を認めた。 セルロースと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性(木質素の確認) 植物片と推定された。 異物の外観は、依頼元から送られてきた資料に添付されていた桃の種の写真と類似しており、当日の献立にミックスフルーツ(黄桃入り)があったことから、桃の種が混入した可能性が考えられた。
揚げパン中の異物 	揚げパンの中から白色タコ糸様の異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	長さ10.5cm、太さ1.6mm程度、重さ61mgの白色タコ糸様異物。 細い繊維が太さ0.5～0.7mmの束となり、右方向にねじり合わさった構造をしており(右撚糸)、両端はちぎれたような形状をしていた。 炭素及び酸素の元素を認めた。 綿に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 綿製の撚糸(紐)と推定された。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

食品中の放射性物質検査結果(令和2年度)

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査*を平成23年7月から行っています。

令和2年度に当所で行った食品の検査結果は表1～表4のとおりです。放射性セシウム(Cs)を320検体中3検体から検出しました。検出された3検体は米(玄米)1検体、米(胚芽米)1検体、たけのこ1検体でしたが、いずれも基準値**を超えていませんでした。

*:食品中の放射性セシウム試験法について

(厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知 食安発0315第4号 平成24年3月15日)

**:放射性セシウムの基準値(Cs-134とCs-137の合計)

乳児用食品:50Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg

ミネラルウォーター類・原料に茶を含む清涼飲料水・飲用に供する茶:10Bq/kg

(厚生労働省が定める放射性物質 厚生労働省告示第129号 平成24年3月15日、厚生労働省告示第130号 平成24年3月15日)

表1 検体の種類及び数並びに放射性Cs検出検体数

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	8	2
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	42	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	3	0
小学校給食	米、麦及び牛乳	267	1
合計		320	3

表2 検体の内訳

検体の種類	品名([]内は検体数)
市内産農産物	かき[1]、かぶ[1]、こまつな[1]、米(玄米)[1]、たけのこ[1]、日本なし[1]、にんじん[1]、ぶどう[1]
市内産水産物	イボダイ[1]、カマス[1]、コショウダイ[1]、シログチ[9]、スズキ[9]、タチウオ[13]、ヒラメ[3]、マダイ[5]
市内産畜産物	原乳[3]
小学校給食	牛乳[133]、米(精米)[73]、米(胚芽米)[25]、麦[36]



ガンマ線核種分析装置(ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメータ)

表3 市内産農産物の放射性Cs検出検体の検査結果

品名	検体数 (Cs検出数)	検出値(Bq/kg)		
		Cs-134	Cs-137	Cs合計
米(玄米)	1(1)	不検出(<0.571)	1.39	1.4
たけのこ	1(1)	1.00	19.1	20
合計	2(2)			

不検出の()内数値は、検出限界値

表4 小学校給食の放射性Cs検出検体の検査結果

品名	検体数 (Cs検出数)	検出値(Bq/kg)		
		Cs-134	Cs-137	Cs合計
米(胚芽米)	25(1)	不検出(<0.678)	0.678	0.68

不検出の()内数値は、検出限界値

原子力発電の燃料中に含まれるウラン(U-235)が核分裂することで発生する熱が発電に使われています。原子力発電所事故で大気中に放出された半減期が1年以上のさまざまな核分裂生成物のうちガンマ線を放出するのはCs-134、Cs-137です。Cs-134の半減期は2.065年、Cs-137は30.17年です。固有のガンマ線を放出してCs-134は安定なバリウム(Ba-134)に、Cs-137は安定なバリウム(Ba-137)になります。このガンマ線を測定します。

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】

衛生研究所WEBページ情報(令和3年4月)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年4月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年4月の総アクセス数は、309,973件でした。前月に比べ14.2%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*89.7%、保健情報6.8%、食品衛生0.9%、生活環境衛生0.8%、薬事0.6%、検査情報月報0.3%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

4月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「大麻(マリファナ)について」でした。10位には、「フルーツジュース(果汁)と下痢について」が入っています。

表1 令和3年4月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	195,668
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	8,764
3	大麻(マリファナ)について	4,807
4	トキソプラズマ症について	4,629
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,755
6	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	3,290
7	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,087
8	リステリア症について	2,871
9	MDMA(通称:エクスタシー)について	2,663
10	フルーツジュース(果汁)と下痢について	2,571

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年4月の問い合わせは、9件でした(表2)。

表2 令和3年4月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
自社製品の効果について	1
インフルエンザ患者数について	5
ホームページの修正について	1
こどもの定期予防接種について	1
害虫に関する相談について	1

2 追加・更新記事

令和3年4月に追加・更新した主な記事は、3件でした(表3)。

表3 令和3年4月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
4月 2日	感染症に気をつけよう(4月号)	掲載
4月 5日	横浜市衛生研究所年報 第59号(令和元年度)	掲載
4月27日	感染症に気をつけよう(5月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年4月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が増加する傾向にあります。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈4月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	1件	梅毒	11件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	百日咳	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件	-	-

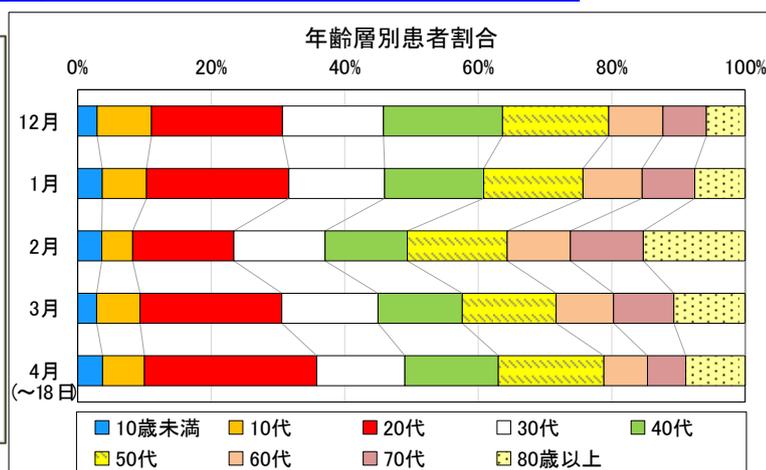
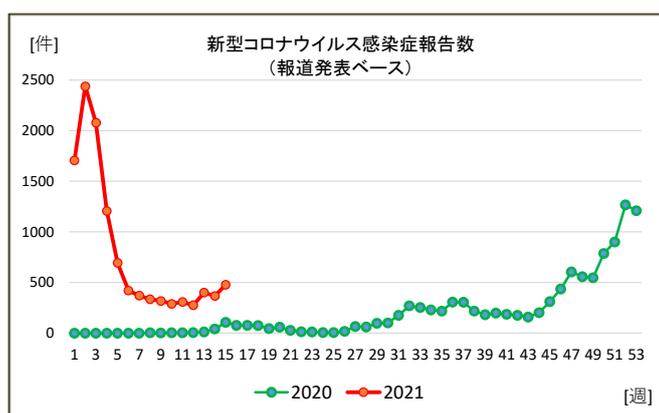
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が2件(うち1件が無症状病原体保有者)、O103が1件(無症状病原体保有者)報告されました。
- レジオネラ症: 肺炎型1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- ウイルス性肝炎: B型肝炎の報告が1件ありました。ワクチン接種歴無で、性的接触(同性間、異性間)による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSが1件、その他が1件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染が推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回)、70歳代の報告が3件(ワクチン接種歴無が1件、不明が2件)ありました。
- 梅毒: 無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件の報告がありました。男性5件、女性6件で、推定感染経路は、性的接触8件(異性間7件、同性間1件)、不明3件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される30歳代の報告が1件ありました。
- 破傷風: 60歳代の報告が1件(ワクチン接種歴無)ありました。針等の鋭利なものの刺入による感染が推定されています。
- 百日咳: 10歳代の報告が1件(ワクチン接種歴4回)ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症

第12週～第15週に横浜市から報道発表のありました症例は1,522件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

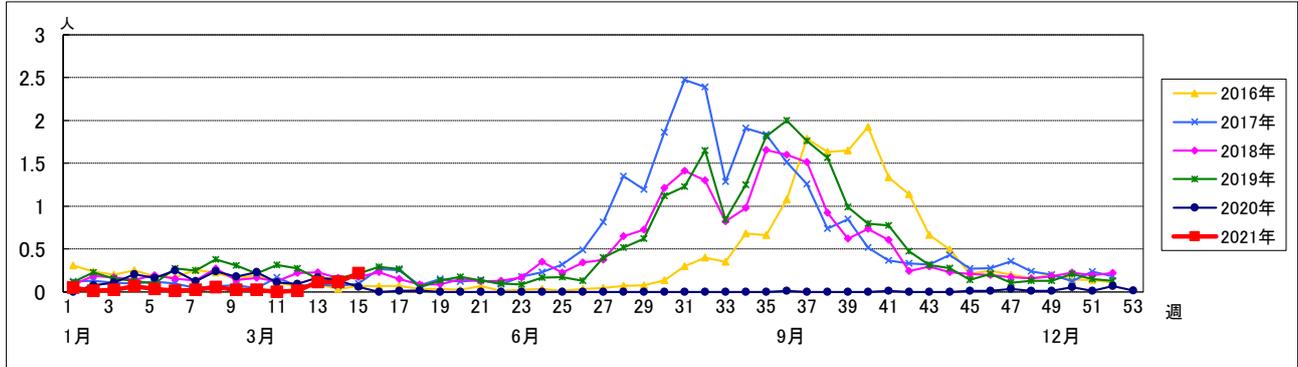
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>



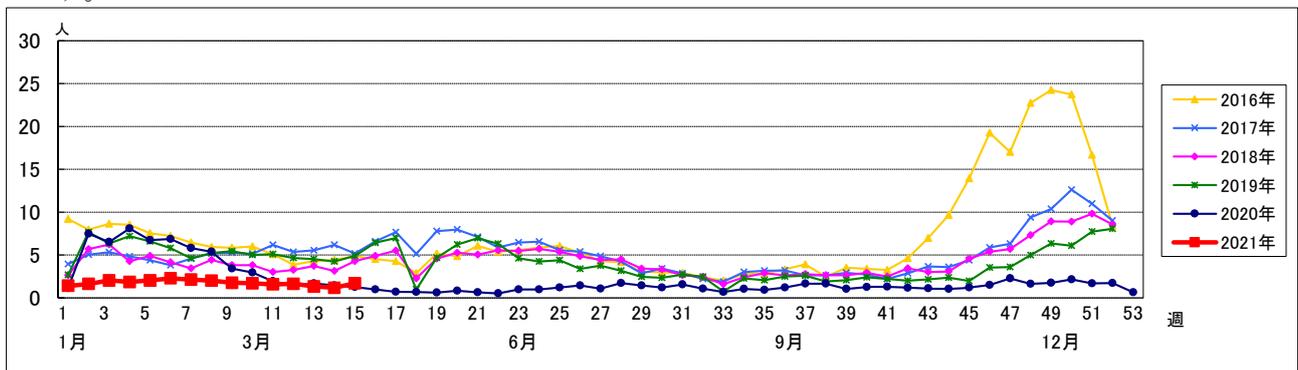
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第12週	3月22日～3月28日
第13週	3月29日～4月4日
第14週	4月5日～4月11日
第15週	4月12日～4月18日

1 RSウイルス感染症: 例年より低めの報告数で推移していましたが、第15週の定点あたりの報告数は0.22です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第15週の定点あたりの報告数は1.69です。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:32件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:5件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:6件	淋菌感染症	男性:17件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

4月期(2021年第12週～第15週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件、内科定点1件、基幹定点3件、定点外医療機関からは1件でした。

5月7日現在、表に示したヘルペスウイルス1型分離1株とライノウイルス遺伝子1件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第12週～第15週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
ヘルペスウイルス1型	1 -	
ライノウイルス		- 1
合計	1 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2021年第12週～第15週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、大腸菌1件、非定点からバンコマイシン耐性腸球菌1件、同定依頼2件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌7件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼はありませんでした。小児科定点からは溶血性レンサ球菌2件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第12週～第15週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
基幹定点	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23A型 (1)
医療機関	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O15 (1)
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium vanA</i> (1)
非定点	同定依頼	2	<i>Citrobacter freundii</i> complex (2)
	腸管出血性大腸菌	3	腸管出血性大腸菌O157 : H- VT1 VT2 (2)、 腸管出血性大腸菌O91 : H- VT1 VT2 (1)
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌	7	A群溶血性レンサ球菌 Tut (1)、 A群溶血性レンサ球菌 T14/49型 (3)、 B群溶血性レンサ球菌 I b型 (3)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	溶血性レンサ球菌	2	不検出 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】